

いま話題の次世代通信「5G」に関する
とっておきの情報をご紹介します

5G通信

Vol.52

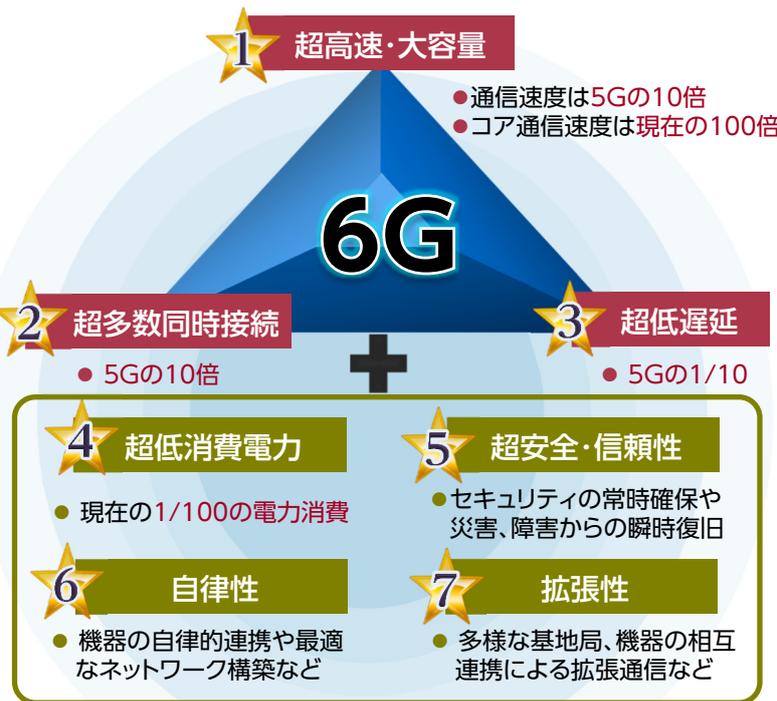
議論が進む次世代通信規格“6G”

次世代通信規格「6G (Beyond 5G)」の研究開発議論が活発化しており、「5G」の進展が加速する中、今後「6G」を見据えた取り組みが本格化する可能性があります

主要国では“6G”の研究開発議論が活発化

- 世界で5G(第5世代移動通信システム)の普及が進む中、政治や研究の世界では、次世代の通信規格「6G」の研究開発議論が活発化しています。
- 2020年12月に日本政府は6Gの研究開発事業を立ち上げ、研究開発費として5年で1,000億円超を投じる構えを示した他、2021年4月にバイデン米大統領と菅首相が示した日米共同声明では、両国が6G開発に総額45億米ドルを投じる内容が盛り込まれました。
- また、世界に先駆けて5Gの普及が進む中国では、国有通信大手のチャイナモバイルが6Gの研究開発を進める他、韓国でも6G研究開発として2025年までに総額約220億円の投入を発表しました。
- 6Gは5Gの各性能をさらに高めるとともに、テラヘルツ波などの「新たな高周波数帯の開拓」、「空・海・宇宙などへの通信エリアの拡大」、「超低消費電力・低コストの通信実現」などの機能強化が見込めます。中でも消費電力の上昇を抑えるために「超低消費電力」が今後の重要技術になるといわれています。

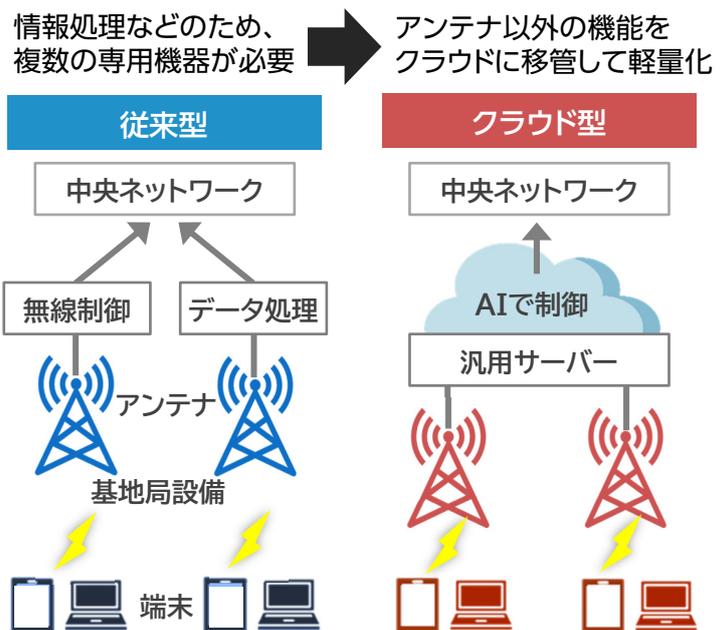
6Gで求められる機能等



6Gの導入に不可欠とされるクラウド基地局

- 中国や日本、米国など一部の国では、2030年頃のサービス開始を目指した技術コンセプトを公開しています。6月に開催された世界最大のモバイル見本市「MWC(モバイル・ワールド・コンGRESS)2021」では、「5G」対応製品やサービスに加えて、「6G」を見据えた最新技術が披露されました。
- その中で特に注目を集めた技術の1つがクラウド基地局です。情報処理を担うハードウェアをクラウド化することによって、基地局設備の縮小によるコスト削減や、データ処理能力や通信速度の向上が期待されます。クラウド基地局は、5Gの進展を後押しするのみならず、6Gの導入に欠かせない技術として存在感が高まる可能性があります。
- 5Gの進展が加速する中、今後6Gを見据えた取り組みが本格化する可能性があり、新たな技術開発によって通信技術分野はますます注目が高まることが期待されます。

クラウドを導入した基地局の仕組み



※当ページの図はイメージであり、全ての情報を網羅したものではありません。
(出所)総務省「Beyond 5G推進戦略」、各種資料を基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成



【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。